Economic Indicators

発表日:2020 年 2 月 19 日(水)

貿易統計(2020 年 1 月)

～1月時点で輸出は大きく崩れていないが、先行きは減少が予想される～

第一生命経済研究所 調査研究本部 経済調査部
副主任エコノミスト 小池 理人(TEL:03-5221-4573)

		貿易収支(億円)				輸出数量				輸入数量			
				輸出金額	輸入金額		アメリカ	EU	アジア		アメリカ	EU	アジア
		原数値	季調値	前年比	前年比	前年比	前年比	前年比	前年比	前年比	前年比	前年比	前年比
19年	1月	▲ 14,177	▲ 2,961	▲ 8.4	▲ 0.8	▲ 9.1	10.2	▲ 1.5	▲ 14.3	0.5	11.4	▲ 3.6	3.7
	2月	3,316	863	▲ 1.2	▲ 6.5	▲ 0.7	4.1	4.6	▲ 1.2	▲ 6.5	5.7	▲ 1.2	▲ 10.8
	3月	5,227	▲ 1,769	▲ 2.4	1.2	▲ 5.7	0.3	4.7	▲ 8.0	0.4	▲ 3.1	▲ 10.7	5.5
	4月	535	▲ 1,802	▲ 2.4	6.5	▲ 4.3	5.1	▲ 2.9	▲ 3.4	4.1	1.4	5.6	3.4
	5月	▲ 9,702	▲ 4,723	▲ 7.8	▲ 1.4	▲ 9.0	▲ 1.0	▲ 8.0	▲ 11.7	▲ 1.2	5.5	10.8	▲ 2.9
	6月	5,875	▲ 32	▲ 6.6	▲ 5.2	▲ 5.6	2.9	▲ 4.5	▲ 5.3	▲ 3.2	2.8	▲ 6.9	▲ 3.8
	7月	▲ 2,523	▲ 1,508	▲ 1.5	▲ 1.1	1.7	10.0	4.6	▲ 4.6	6.6	9.5	1.4	8.4
	8月	▲ 1,457	▲ 1,123	▲ 8.2	▲ 11.9	▲ 6.0	▲ 3.5	▲ 2.2	▲ 8.8	▲ 6.0	▲ 3.4	▲ 4.8	▲ 4.2
	9月	▲ 1,283	▲ 777	▲ 5.2	▲ 1.5	▲ 2.4	▲ 3.9	0.2	▲ 5.9	6.7	▲ 0.9	8.7	8.1
	10月	128	▲ 928	▲ 9.2	▲ 14.7	▲ 4.5	▲ 6.6	▲ 7.5	▲ 7.0	▲ 6.1	▲ 7.5	▲ 11.2	▲ 7.0
	11月	▲ 875	▲ 867	▲ 7.9	▲ 15.6	▲ 5.1	▲ 9.7	▲ 8.2	▲ 2.7	▲ 8.1	▲ 1.3	▲ 10.3	▲ 8.6
	12月	▲ 1,546	▲ 1,072	▲ 6.3	▲ 4.9	▲ 1.9	▲ 11.3	▲ 6.8	0.5	1.1	▲ 4.9	1.5	0.6
20年	1月	▲ 13,126	▲ 2,241	▲ 2.6	▲ 3.6	▲ 1.6	▲ 8.9	▲ 5.5	▲ 1.5	▲ 1.3	▲ 19.6	1.1	0.5

(出所)財務省「貿易統計」

○貿易収支（季節調整値）は赤字幅を拡大

財務省より発表された１月の貿易統計によると、貿易収支は▲13,126 億円と赤字（コンセンサス：▲16,848 億円、レンジ：▲19,590～＋12,986 億円）になり、コンセンサスを上回る結果となった。

輸出金額は前年比▲2.6%（コンセンサス：▲7.0%、レンジ：▲11.3%～▲3.4%）、輸入金額は同▲3.6%と共に減少(コンセンサス：▲2.0%、レンジ：▲7.0%～＋0.8%）した。季節調整値では輸出金額が前月比▲3.7%、輸入金額が同▲1.8%となり、貿易収支は▲2,241 億円と前月から赤字幅が拡大した。今年は春節が１月であった（１月 24 日から１月 30 日）ことから中国を含むアジア圏への輸出が落ち込んだが、振れの大きい船舶の輸出が増加した影響もあり、輸出の減少幅は事前の予想よりも小さなものとなった。

○実質輸出は前月比▲2.1%

為替などの価格変動の影響を除いた１月の実質輸出は、前月比▲2.1%（12 月：同＋0.7%、実質化・季節調整は第一生命経済研究所試算）となった。大きな減少幅ではあるものの、春節の影響を踏まえれば、落ち込み幅は想定よりも穏やかなものであり、少なくとも１月時点の段階では輸出が基調として大きく下振れていないと判断できる。ただし、２月以降は新型肺炎の影響により下押し圧力が強まることが予想される。

米国向けは前月比＋1.2%と７か月ぶりの増加となった。６ヶ月に及ぶ弱い動きを考慮すると小幅な戻りではあるものの、一旦は長引く輸出の減少に歯止めがかかる形となった。

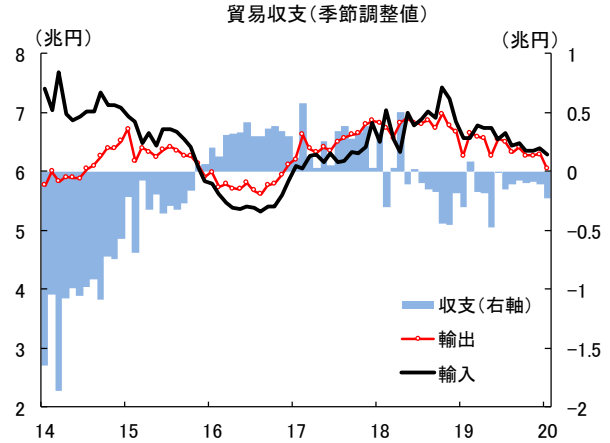
一方で、アジア向けは春節の影響を受けて前月比▲3.1%と減少した。春節の影響で基調が掴みにくくなっているが、中国向けが同▲10.7%と大きく減少する中でも、ASEAN が同▲0.2%とほぼ横ばいの

動きとなっていることから、今月の減少は基調の変化ではなく、あくまで春節の影響である可能性が高いだろう。ＥＵ向けについては、輸送用機器や一般機械の減少を主因に同▲1.8%と減少した。2020年からＥＵで義務化された新たな排出ガス規制が自動車を中心とした輸送用機器を下押しした可能性がある。

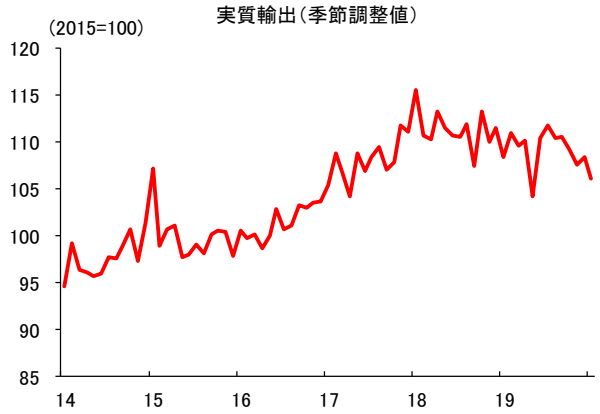
○新型肺炎が新たな懸念材料に

新型肺炎の感染拡大が貿易にも影を落としている。感染の拡大を受けて、中国は１月 30 日に終了予定であった春節に伴う休日を２月２日まで延長し、その後も多くの都市で企業の休暇が２月９日まで延長された。２月 10 日からは春節に伴う休日が明けたものの、感染の拡大に歯止めがかからない中で本格的な稼働は難しく、当面の間、生産や物流が麻痺した状況が続くことが予想される。そのような環境下、対中輸出は停滞することが避けられないだろう。対中輸出が日本の輸出に占める割合は約19%と高いことに加え、中国がグローバルなサプライチェーンに組み込まれていることにより、中国以外の国への輸出にも影響が及ぶことが想定され、輸出の下押し圧力は今後一層強まっていくだろう。

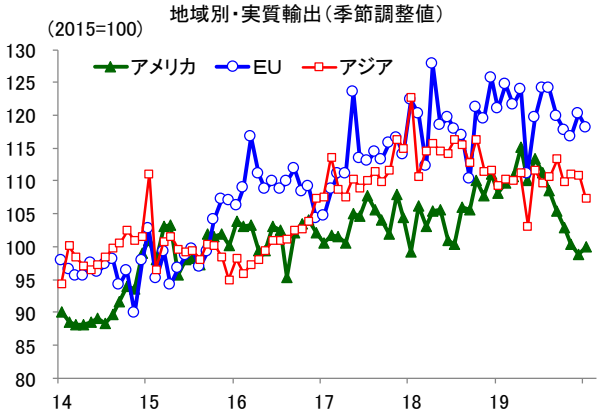
加えて、新型肺炎による中国の景気減速が米中貿易摩擦に悪影響を及ぼすことも懸念される。１月 15 日に米中両国による第一段階の合意文書への署名が行われ、２月 14 日から米国の 1,200 億ドル分の中国製品に対する制裁関税が 15%から 7.5%へと引き下げられたことから、米中貿易摩擦を巡る懸念は一時後退している。ただし、第一段階の合意には中国による米国からの輸入を 2,000 億ドル以上増やすことが盛り込まれており、新型肺炎の感染拡大によって景気減速がほぼ確実視される中国の履行が危ぶまれる中で、新型肺炎が米中間での通商交渉の波乱要因となる可能性がある。米中両国の対立が再び激化する場合には、関税の引き上げを通して世界経済の不透明感が一層高まることが想定されるため、米中協議の動向にも引き続き注意を払う必要があるだろう。



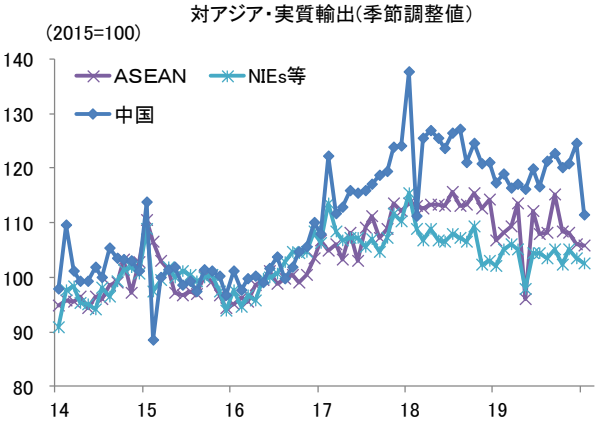
（出所）財務省



（出所）財務省、日本銀行
※実質化および季節調整は第一生命経済研究所



（出所）財務省、日本銀行
※実質化および季節調整は第一生命経済研究所



（出所）財務省、日本銀行
※実質化および季節調整値は第一生命経済研究所

本資料は情報提供を目的として作成されたものであり、投資勧誘を目的としたものではありません。作成時点で、第一生命経済研究所調査研究本部経済調査部が信ずるに足ると判断した情報に基づき作成していますが、その正確性、完全性に対する責任は負いません。見通しは予告なく変更されることがあります。また、記載された内容は、第一生命保険ないしはその関連会社の投資方針と常に整合的であるとは限りません。